

野島 良太「文化の日、保留の絵」

Ryota Nojima "Culture Day, the paintings put on hold"

2022年11月2日(水) - 12月3日(土)

水 - 土 12:00-19:00

※11月2日(水) - 6日(日) 10:00 - 19:00 OPEN (Art Week Tokyo)

※11月16日(水) - 19日(土) 臨時休廊

HAGIWARA PROJECTS

〒135-0006 東京都江東区常盤 1-13-6-1F

T/F: 03-6300-5881 E: info@hagiwaraprojects.com

www.hagiwaraprojects.com



「soundproof」 2022, oil on canvas, 160 x 130.3 cm

この度HAGIWARA PROJECTSでは、11月2日より野島良太による個展「文化の日、保留の絵」を開催いたします。弊ギャラリーで2回目の個展となる本展では、新作のペインティング約10点を発表します。

野島は、人物や動物、風景などを淡い色調のイラスト風タッチで描く一方で、抽象度の高いペインティングも同時並行に手掛けます。スタイルはさまざまですが、作品の多くは日常に起こったことや体験を日課のように描き止めているドローイングが起点となっています。ペインティングは、それらの日々の感覚を、一つ一つ画面と応答を繰り返しながら蓄積していくリアルさ、実感の現れです。ひとつのスタイルに包括されない多様な思考、感性があることを肯定し、またそこにゴールや目的を明確に提示せず曖昧なままに提示することは希望のあることだと作家は言います。タイトル、現れた形がもつイメージ、筆の跡、色といった野島の絵画に存在する様々な要素が、鑑賞者各々の自由な物語、解釈を促します。

「普段のいろいろな何かを無かったことにしないために、絵を描いているところがある。

そういったところから出発した絵も描いてるうちに考えが変わったり、脚色されたり、無意識な行動を取ったり、また絵の力に持っていかれ思いもよらない方向へ進むことが多い。

そんな絵とのやり取りと向き合ううちに、個人的なもののように個人的でないものになるのではないかな。未だに絵の力とは何なのか描きながら探している気がする。」 野島良太 2022

作家略歴:

1987年東京都生まれ、2012年武蔵野美術大学 造形学部油絵学科油絵専攻 卒業。

主な展覧会に、「飄」 OGUMAG+ (2022、東京)、「Shared kitchen」 富士見台トンネル (2021、東京)、「〇〇 life」 SET project Space Lewisham (2021、ロンドン)、「Invisible Strings in Spring」 Devening Projects (2018、シカゴ)、「NOJIMA PROJECTS」 HAGIWARA PROJECTS (2016、東京)、「TWS-emerging-絵くんと絵さんが絵しても絵はできない」 TWS渋谷(2015、東京)など。